

「野間小学校のアッチャメ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

中種子町立野間小学校

2 学年・人数

6年生42人 5年生31人 (計73人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年9月 体育の授業(本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月19日(日) 小学校運動会(本校運動場)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

下田集落「アッチャメ踊り」(しもだしゅうらく「あっちゃめおどり」)

(2) 由来

歌に唱われている、下田嘉太郎という人が150年ほど前に中種子町の下田集落に住んでいた。馬の鞍作りが主な仕事だったが、親の代から下田集落で船を持ち、鹿児島や大阪方面と交易を行っていた。この交易の際に県外の文化に触れたと推測されている。

種子島では、人柄の良い者や容姿が優れる者、人と違った事を行う者を歌にして唱う習慣がある。下田嘉太郎も人柄が良く容姿が優れていたため、歌にして「下田嘉太郎」として踊り継がれている。

(3) 構成等

下田集落に伝わるアッチャメは、始めはゆっくりと歌うが、後半に進むほど速く歌い、踊りもそれに合わせて速くなる。衣裳は浴衣に腰下、白足袋、襷がけ、手ぬぐいではおかむりである。竹筒に銭を入れて音を出し、片手に持ち替えながら音を鳴らして踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

下田アッチャメ保存会から講師を招き、毎年9月頃に5・6時間目の体育の授業で伝承を行っている。現在では、歌や踊りも子供たちが当日演奏していて、今年度からは隊列づくりも含めた本格的な練習を行った。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

体育の授業で実際に踊っている地域の人から歌の内容を教わり、講師が居ないときは上級生から下級生へと指導を行うことで、伝統を引き継いでいくことの大切さを学べるようにしている。

新型コロナウイルス感染症対策として、観客席を向くのではなく円形の隊列で踊り、どの観客席からも子供たちの踊りが見える様に工夫した。

7 取組の様子



【運動会での発表】



【運動会での発表】



【運動会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 大きな声を出して踊るとすっきりした。(児童)
- みんなで同じ動きをして踊るのは楽しかった。(児童)
- 6年生に優しく教えてもらったので、うれしかった。(児童)
- 子供たちの満足そうな顔が印象的だった。これからも、6年生の先輩から後輩への伝承が続いていけばよいと思う。(6年生担任)
- 間近で楽しそうに、そして一生懸命に踊る子供たちの表情を観ることができて、こちらまでうれしくなった。(保護者)